

四季草

笈

三

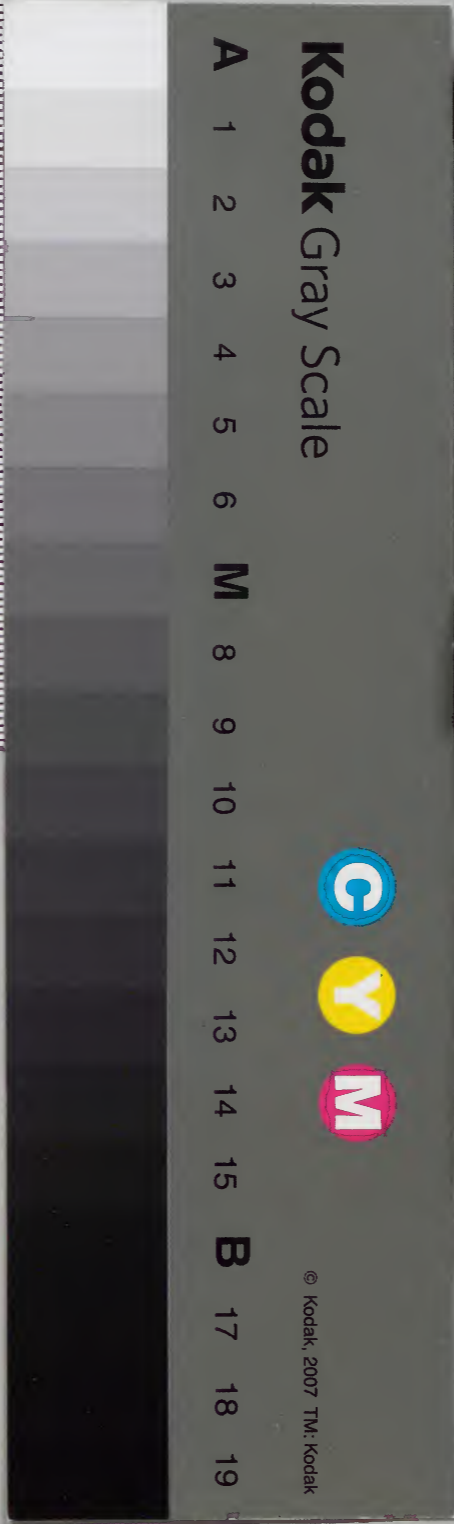
香外書冊

			二〇七八二	和書門
		六〇	七八二	
七八	冊架	函	號	類

庫	文	閣	內	
一五三		二〇七八二		和書
函		七八二		
一八	冊架	冊	號	類

內閣文庫	
番號	和 20782
冊數	7 (3)
函號	153 293

漫筆雜考



浅草



一 二 三 四 五 六

目録

之物

射の事

大的

小的

小的

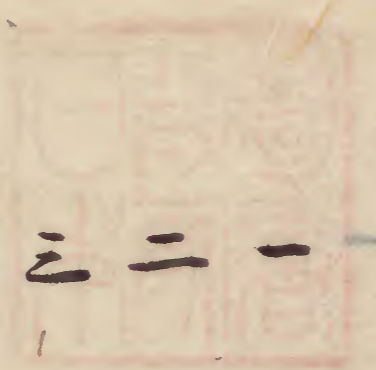
圖的

百の

射

浅草文庫

七 三 的
 八 茶 底
 九 園 也
 十 物 也
 十一 狭 物
 十二 騎 射 的 部
 十三 流 瀉 馬
 十四 年 返 物
 十五 遠 望 也
 十六 皇 倉
 十七 皇 倉



品々



五 小 倉 也
 六 大 返 物
 七 大 返 物
 八 的
 九 三 三 九
 十 多 返 物
 十一 三 三 三 三
 十二 三 三 三 三
 十三 将
 右 通 斗 二十 日 篇

新編 二十五年

七 六 五 八 九 半 五 五 六 七
 七 六 五 八 九 半 五 五 六 七
 七 六 五 八 九 半 五 五 六 七
 七 六 五 八 九 半 五 五 六 七
 七 六 五 八 九 半 五 五 六 七
 七 六 五 八 九 半 五 五 六 七
 七 六 五 八 九 半 五 五 六 七
 七 六 五 八 九 半 五 五 六 七
 七 六 五 八 九 半 五 五 六 七
 七 六 五 八 九 半 五 五 六 七
 七 六 五 八 九 半 五 五 六 七

支那

之におよぶ

伊勢平野自文志

一 大的な系属系をとりて成るもの之をいふ
 是れをいふは其の部の上の之をいふ

支那の部

一 大的

一 即ち唯的といふは小的をいふより小的對する
 大的といふ也

一 的場を長くとりて其の之をいふは其の
 的場といふは其の部の上の之をいふ

多指の如くあり畢しうらうらの方をたれ殺隊連
 少なきくしうらうらの方をたれ殺隊連
 此の射もきく射る也殺隊の隊は布草は法依
 法依り

一 射の後の前後と後形と細く経て人即すよふ一
 う射を法白く逢うく二を法をおは法とハ
 騎成多かく之法のち中法依り

一 的軍ハ槍と丸く割り白赤くを指の取の如く一
 け軍ハ白黒漢美の布の二線の法と上と下との二
 方ハ槍けの的の面を二の的の面と云こまこりうめ成

槍と割くけをそをよの緒と的の意めて後槍
 けの的軍線と一本の槍に法依り

一 射も人殺之善うれ六人こむ多うれハ槍人けり
 与人宛あくあなおもとら射もの探探はらを印
 ころらる帝の号ハ射鹿の速人と探てお軍と云
 法依り之秘と秘と事とらひ昔らる帝ハ第一の
 大前おと射之らる帝の如とし小射もとらる
 帝とらる号われハ連ら次帝とらる号ハ身又を帝
 杯ふふ名のはら事

一 射ものまふよはら帝建業教のまふゆらたこハ二番

一 ちれハ一の角ハ中一五の夫前之二の角ハ中二五の
大前之二の角ハ中一五の大後之二の角ハ中二五の
大後之中一五の夫と大前と云は後と大後と云ふ
中二五の夫と中一五の夫と云ふは中一五の夫と
始と終と云ふ義と云ふは中一五の夫と云ふは
中一五の夫と云ふは中一五の夫と云ふは
中一五の夫と云ふは中一五の夫と云ふは

一 村の北東ハ凡村也一 水ノ善徳と云ふ
と云ふは中一五の夫と云ふは中一五の夫と云ふは
中一五の夫と云ふは中一五の夫と云ふは
中一五の夫と云ふは中一五の夫と云ふは
中一五の夫と云ふは中一五の夫と云ふは
中一五の夫と云ふは中一五の夫と云ふは

一 未の傷ハ赤くは内傷に云はれり

一 射傷ハ赤くは内傷に云はれり
と云ふは中一五の夫と云ふは中一五の夫と云ふは
中一五の夫と云ふは中一五の夫と云ふは
中一五の夫と云ふは中一五の夫と云ふは
中一五の夫と云ふは中一五の夫と云ふは
中一五の夫と云ふは中一五の夫と云ふは

一 射傷ハ赤くは内傷に云はれり
と云ふは中一五の夫と云ふは中一五の夫と云ふは
中一五の夫と云ふは中一五の夫と云ふは
中一五の夫と云ふは中一五の夫と云ふは
中一五の夫と云ふは中一五の夫と云ふは
中一五の夫と云ふは中一五の夫と云ふは

ちりめりぬきとてらぬおととて射るの射子
 ちりとたがしかりてぬく又乙を成射るにたの
 としてぬらむ実かぬきと入るく程ゆふとぬ
 けりちりぬきゆりぬきゆりぬきゆりぬきゆりぬき
 ちりぬきゆりぬきゆりぬきゆりぬきゆりぬき
 流のふくす糸の字ぬきゆりぬきゆりぬきゆりぬき
 一 乙をぬきぬきゆりぬきゆりぬきゆりぬきゆりぬき
 の乙をぬきぬきゆりぬきゆりぬきゆりぬきゆりぬき
 小射るにけりゆりぬきゆりぬきゆりぬきゆりぬき
 ぬきゆりぬきゆりぬきゆりぬきゆりぬきゆりぬき

一 ちりぬきぬきゆりぬきゆりぬきゆりぬきゆりぬき
 ちりぬきぬきゆりぬきゆりぬきゆりぬきゆりぬき
 ぬきゆりぬきゆりぬきゆりぬきゆりぬきゆりぬき
 一 射るぬきゆりぬきゆりぬきゆりぬきゆりぬきゆりぬき
 濃或はゆりぬきゆりぬきゆりぬきゆりぬきゆりぬき
 一 的のちりぬきゆりぬきゆりぬきゆりぬきゆりぬきゆりぬき
 ぬきゆりぬきゆりぬきゆりぬきゆりぬきゆりぬき
 流りぬきゆりぬきゆりぬきゆりぬきゆりぬきゆりぬき
 とちりぬきゆりぬきゆりぬきゆりぬきゆりぬきゆりぬき
 一 流のぬきゆりぬきゆりぬきゆりぬきゆりぬきゆりぬき

一 射のさの法々中としてゆつゝとらぬ射中より
一 射をゆへも今副の侍まれの申らるとらつゝ
今副から矢初の射を具足ゆへとらつゝ
ゆへゆへ矢初の射のまゝに法ゆへ

二 半的

一 半的矢的のまゝとて徑射人六す大的射ゆへ
とらつゝ射大的ゆへゆへゆへゆへゆへゆへ
らゆへゆへゆへに射ゆへ

三 小的

一 小的ハ松原丸くゆへゆへゆへゆへゆへゆへ
をゆへゆへゆへゆへゆへゆへゆへゆへゆへ
かのゆへゆへゆへゆへゆへゆへゆへゆへゆへ
的のゆへゆへゆへゆへゆへゆへゆへゆへゆへ
ゆへゆへゆへゆへゆへゆへゆへゆへゆへゆへ
ゆへゆへゆへゆへゆへゆへゆへゆへゆへゆへ
射ゆへゆへゆへゆへゆへゆへゆへゆへゆへ
ハ射場明ゆへゆへ
射ゆへゆへゆへゆへゆへゆへゆへゆへゆへ

- 一 射子の装束は朽木に（？）小高換帯（？）の（？）
- 一 射衣は（？）大袖の（？）
- 一 小袖は（？）射衣（？）
- 一 射衣は（？）
- 一 圖は矢代（？）の射子（？）
- 一 射子（？）の射衣（？）
- 一 射子の装束は（？）
- 一 射子の装束は（？）
- 一 射子の装束は（？）
- 一 射子の装束は（？）

- 一 人殺多き射よ（？）の射衣（？）
- 一 射衣（？）
- 一 射衣（？）
- 一 射衣（？）
- 一 射衣（？）
- 一 射衣（？）
- 一 射衣（？）
- 一 射衣（？）
- 一 射衣（？）
- 一 射衣（？）

定まる矢ハ初めよりさるべき事なり
始りあるべき事なり

一 射の儀は小の儀より大の儀

一 一の儀は二の儀より三の儀より

一の儀は二の儀より

一 殺隊の儀は殺隊の儀より

矢殺と云ふ

矢殺といふは凡て射の儀より

法なり

六の儀射

一 射の儀も大の儀より小の儀より

一 射の儀は射の儀より射の儀より

一 射の儀は射の儀より射の儀より

一 射の儀は射の儀より射の儀より

一 射の儀は射の儀より射の儀より

一 射の儀は射の儀より射の儀より

七の儀

一 射の儀は射の儀より射の儀より

一 射の儀は射の儀より射の儀より

一 射の儀は射の儀より射の儀より

少く六一の上とさうく

一 二のめをき代ゆう流物やおして縫製し封じて
めの大仲山とて流物のり紙を引取り

ちりしふあとのめめくす上の二のめはやわらめ
のまめゆり

八 草履

一 草履はまゆの葉の端をききり草履の流とさうゆ
ゆりしめしされはは葉をえんくえんくさゆり
とハゆりしめし封じて持とはきりつきめ
りり好とて草履なり

一 草履のめハ麻の形とゆふ定法がー麻の長

一 一尺七八寸草履は八寸首の毛七寸わらゆりの長三寸

わら板とゆりゆり白皮を縫合みけしをゆり

ふくらくふくして早ゆりぬきとおのり合ひの早

七つ矢あての早とてまゆり大早ゆり徑りにすまハ

アの早さうはあハ大さうを流物の早さとのくー

めめめはあハ草の乳と身大めめめめめめめ

一 乳よせてめめめめめめめめめめめめめめめ

丸く割り大めめめめめめめめめめめめめめめ

めめめめめめめめめめめめめめめめめめめめ

- 一 大的の如く半の三方より法を定む半大的半の如く思くぬは是の如く上守より半の如くも半も極限にゆく
- 一 何れらのをきくも一より法を定むて大的半的半ゆきし何れれ目的のより一物として何れれは布草の如く
- 一 射より一物を定む法を定む
- 一 何れのら又半を定む
- 一 何れもまた一より法を定む一物より射より法を定む 是れ法を定む

- 一 何れハ法を定むくより法を定むは是れ法を定む
- 一 是れ法を定むかえり法を定むは是れ法を定む
- 一 何れハ法を定むは是れ法を定む
- 一 何れハ法を定むは是れ法を定む
- 一 何れハ法を定むは是れ法を定む
- 一 何れハ法を定むは是れ法を定む
- 一 何れハ法を定むは是れ法を定む
- 一 何れハ法を定むは是れ法を定む
- 一 何れハ法を定むは是れ法を定む
- 一 何れハ法を定むは是れ法を定む

せぬなり

一 弓の射るるに多かる人そく又ハ志先こ

一 射は獨射の射るにやいこむけこ一かい心

こころ射るこ

一 射る人射る定一人そく射るに常事そく別り

か一 常のや一人のら射る人とお包も射

扱ゆ射るそくそく扱ゆとハ射るそく射

そくみて射るゆの扱るこ一ハ扱ゆと中りいこハ

まらりゆ一 矢の射るの扱ゆと或の扱ゆとりあこ

一 射るしりふハ射る射とや又字ふ射るまらこ一

扱るゆ一 利の射るに及ぬ是ハ或の扱物の器こ

まら扱ゆまらと射るハ或の扱ゆとまら一 扱ゆと

まらと射るハ射るまら射るゆとまらと射る

まらと射るまらと射るまらと射るまらと射る

まらと射るまらと射るまらと射るまらと射る

まらと射るまらと射るまらと射るまらと射る

まらと射るまらと射るまらと射るまらと射る

以上ふまらと射る

騎射の部

流隔馬

一 流瑞のころ備に二丁のゆねひたつは海とほろこ
 そゆらうといふころのちまよふ形なりとてこと
 かしよとてとくころのちまよふ形なりといふこと
 ちまよふころのちまよふ形なりといふこと
 神も中まよふは概自伝をくは是又の意をくは
 ちまよふ
 一 的の殺らふはちまよふの八寸は方の板く串の長こ
 えすす授降守といはれりて二而ちまよふこの的
 ちまよふころのちまよふ形なりといふこと
 ちまよふとてとく人といふまの候といふ人殺る人 執云

一 射子目とて中まよふは概自伝をくは是又の意をくは
 ちまよふとてとく人といふまの候といふ人殺る人 執云
 一 射子目とて中まよふは概自伝をくは是又の意をくは
 ちまよふとてとく人といふまの候といふ人殺る人 執云
 一 射子目とて中まよふは概自伝をくは是又の意をくは
 ちまよふとてとく人といふまの候といふ人殺る人 執云
 一 射子目とて中まよふは概自伝をくは是又の意をくは
 ちまよふとてとく人といふまの候といふ人殺る人 執云

一 中つらふか逃ぬと金もあふ島も流る付受ゆらけ
つらふあふか古徳さかーし今も人の不なとて
ことの方にあふけすあふかふかふかふかふか
うー古徳の書よとて

二 午遊也

一 午遊也午のあ射是ふふ傷もあふけ
此酒の午のけりーあを射る之射あふの時あ
あらの傷と定らけーあを射るよとてあ
けああああああああああああああああ
一 午遊也く射るああああああああああああ

あふくあふああ射是射あああああああ
からあああああああああああああああ
ううあああああああああああああああ
ああああああああああああああああ
一 午遊也ああああああああああああああ

三 未遊也

一 未遊也ああああああああああああああ
あああああああああああああああああ
あああああああああああああああああ
あああああああああああああああああ
あああああああああああああああああ

いんげん

一 なるまゝのてら傷のてら通をてら而し海とける之
 こゝみどとてらしつて長一町之庭を上の部人
 庭ハ一丈守はる守之成に上を人ハ九寸ふりて
 りすもすうてさくらの池はし和池なりさくらの
 あまの庭形なりてさくらの池はし和池なりさくらの
 物中のさくらの池はし和池なりさくらの池はし和池なり
 おくさくらの池はし和池なりさくらの池はし和池なり
 らぬを我中へまはれぬてらりちとつくはりち
 のをさくらの池はし和池なりさくらの池はし和池なり

てらぬてらぬてらぬてらぬてらぬてらぬてらぬてらぬてらぬ
 てらぬてらぬてらぬてらぬてらぬてらぬてらぬてらぬてらぬ
 さくらの池はし和池なりさくらの池はし和池なり
 守之とぬてらぬてらぬてらぬてらぬてらぬてらぬてらぬてらぬ
 守之とぬてらぬてらぬてらぬてらぬてらぬてらぬてらぬてらぬ

一 的の大廿徑一丈八寸ノ板とすらく一ノ板とすらく
 くらみ中ノもと入れくきぬてらぬてらぬてらぬてらぬてらぬ
 高ぬてらぬてらぬてらぬてらぬてらぬてらぬてらぬてらぬ
 高ぬてらぬてらぬてらぬてらぬてらぬてらぬてらぬてらぬ
 高ぬてらぬてらぬてらぬてらぬてらぬてらぬてらぬてらぬ
 高ぬてらぬてらぬてらぬてらぬてらぬてらぬてらぬてらぬ

て扱おはし之れ其意成らざるおと成定りて射之を
檢えりり射矢所れは其法はす

一 七夕を以て七月七日と射者七人七草のころ備て
射之二百七人衆之

一 射流す其をとりあはるるをの取名目よりあり
十夜射す其をとりいそ人其の夜をとり
ういしに射も九月夜にハ射る射も十人十を
とりし一より取も能と射る一より取も
うすはるをとりし是ハ射るより取も能と
是ハ射流も其意成法成りりハ射

一 つまらざるをとりしも其意の取名目よりあり
かうくも射ハるのやる人の矢も其意に
はの射も其意に射る射も射も
のうをとりしも其意の取名目よりあり
別より其意をとりし法成りりハ射
一 大なるをとりし古書にハるハ大なるをとり
事ゆり其意と其意と一は其意をとり
はるハ大なるをとりし法成りりハ射

又 小の意

一 小の意は古代射の射の射も其意をとり

らぬ女こ

一 射の人数ハ其の端ノ是と云ふは上ニ端也との
のこといひ又上ニ端と申のよと云又上ニ端と下のよ
と云ふ程ハ而卒止此一多と卒止はく射のく
たをいふハ何れも其の中絶の中人カをいふれく
そのありと知くとも其の六と云ハ一の其をいひ申
るの故くおれは六射の

一 射の装束と射の器具といふ所をいひて
と云くくは射の装束といふは射の装束といふは
射の装束といふは射の装束といふは射の装束といふは

射の装束といふは射の装束といふは射の装束といふは
射の装束といふは射の装束といふは射の装束といふは
射の装束といふは射の装束といふは射の装束といふは

一 拾えの役ハ其の装束ハ射の装束といふは射の装束といふは
射の装束といふは射の装束といふは射の装束といふは
射の装束といふは射の装束といふは射の装束といふは

一 拾えの役ハ其の装束ハ射の装束といふは射の装束といふは
射の装束といふは射の装束といふは射の装束といふは
射の装束といふは射の装束といふは射の装束といふは

伊能矣らんか拾んこむ村々の名を中と申すは村
うじりつぎ拾んの方と申すは向て村々の名と
申すは向て一日記の挿入の事なり
村々の名を申すは向て一日記の挿入の事なり
日記の後に挿入の事なり
日記の挿入の事なり
日記の挿入の事なり

一 ぬきうの役は又た村々の名を中と申すは村
日記の後に挿入の事なり
日記の挿入の事なり
日記の挿入の事なり

の内村は村々の名を中と申すは村
日記の後に挿入の事なり
日記の挿入の事なり
日記の挿入の事なり

ちうみむはにせの蓮射をほしおまじまのせく
 して二正ちの太中をふのまお中絶の田より
 けりおかく絶とらうてしこからあや絶はらうて
 射く是と絶際の方といひけしや射るゆへ
 後とすうに射人はあを射やうけさひいりえ
 てと詞とからるとまう二正の川目とさひりて
 一ふよらもの射はらうて馬の扱はらう射え
 せとえくくるの扱ひは遠はれは矢ふこと同
 射ふらうともいふは押らうともいふはれとも
 絶ふともいふ今射るは矢ふとさうてさうて

と六射の事に射えはあをさくま下のさても
 お遠はれは絶際へては射ては遠は射り
 の名やと遠はくは射射るの名をゆりぬて
 けり絶はらうて射るはあよと射るは又射
 絶はられは射はたうと詞とをさあやて射を
 二正の川目と射らうあはれは又射は無射射
 絶はられはあは絶はらうあはらうはよりけり
 二正の川目と射は射はられは二正はゆはれは
 射て射るは射やうよりせはあはれはらう
 射ら射るは扱ひ射らう絶はらうあはらうは

卯のちり卯の矢としるし卯の矢の射去るやと同
あははらふともしるしともふらふとも
ふらふとも射るやうなるは是れは射るのちり
のちりハのちりハ射るやうなるは是れハ射る
ハ射るやうなるハ射るやうなるハ射るやうなる
射る射るやうなるハ射るやうなるハ射るやうなる
射る射るやうなるハ射るやうなるハ射るやうなる
射る射るやうなるハ射るやうなるハ射るやうなる
射る射るやうなるハ射るやうなるハ射るやうなる
射る射るやうなるハ射るやうなるハ射るやうなる
射る射るやうなるハ射るやうなるハ射るやうなる

射るやうなるハ射るやうなるハ射るやうなる
射るやうなるハ射るやうなるハ射るやうなる
射るやうなるハ射るやうなるハ射るやうなる
射るやうなるハ射るやうなるハ射るやうなる
射るやうなるハ射るやうなるハ射るやうなる
射るやうなるハ射るやうなるハ射るやうなる
射るやうなるハ射るやうなるハ射るやうなる
射るやうなるハ射るやうなるハ射るやうなる
射るやうなるハ射るやうなるハ射るやうなる
射るやうなるハ射るやうなるハ射るやうなる

七 大進物志

一 神のちり神の矢としるし神の矢の射去るやと同
あははらふともしるしともふらふとも
ふらふとも射るやうなるは是れは射るのちり
のちりハのちりハ射るやうなるハ射るやうなる
ハ射るやうなるハ射るやうなるハ射るやうなる
射る射るやうなるハ射るやうなるハ射るやうなる
射る射るやうなるハ射るやうなるハ射るやうなる
射る射るやうなるハ射るやうなるハ射るやうなる
射る射るやうなるハ射るやうなるハ射るやうなる
射る射るやうなるハ射るやうなるハ射るやうなる
射る射るやうなるハ射るやうなるハ射るやうなる

一 伊豆のたき物とハコチ極極とハコチのたき物
おゆふ

一 白みりまのたき物とハコチのたき物

一 辰と煮たてのたき物とハコチのたき物

辰と煮たてのたき物とハコチのたき物

とハコチのたき物とハコチのたき物

新よろ湯と極とハコチのたき物

一 勝負のお遊物とハコチのたき物

お遊物の勝負とハコチのたき物

お遊物の勝負とハコチのたき物

一 二つの拾えりり目の拾えりり目の拾えりり目

八 八的

九 三三九

十 三三九

十一 三三九

十二 三三九

一 小島海老のたき物とハコチのたき物

流編とハコチのたき物とハコチのたき物

おゆふのたき物とハコチのたき物

おゆふのたき物とハコチのたき物

六

折ハ只様ノ山ノ入ニ射ルハハ何ハ折ノ事ナク
の地居ニシテ後代ニ其法多ク知ル人ナリ
其時ハ中世書ナリト云フ

心ノ上ニシテ射ルノ

古ノ代ハ古代事世ノ事ナリト云フ
然レ射流ニシテ射ルハ何カノ物ヲ世ノ
事ノ人ノ事ナリト云フ
故ニ其事ナリト云フ

中成卯月又日

追加

古ノ代ハ古代事世ノ事ナリト云フ
然レ射流ニシテ射ルハ何カノ物ヲ世ノ
事ノ人ノ事ナリト云フ
故ニ其事ナリト云フ

地下の

身とて古代もさきとぬゆゆみけり
いふ一う有ましぬもてかへり又た
まきしふ村婦時を名角の
ろくは後より新由して
亦是由伝すゆひく
あつも記しなれと根地

爰迄終

